教科等研究会（中学校音楽部会）

# 令和６年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

| |
|---|
| 主体的・対話的で深い学びを実現する音楽科授業の創造 |

２　研究経過

| 第１回 | | | 第２回 | | | 第３回 | | | 第４回 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6/7 | 10名 | 嘉島中 | 8/5 | 10名 | 嘉島中 | 12/12 | 10名 | 御船中 | 1/16 | 10名 | 嘉島中 |

３　研究の概要

（1）研究の内容

本研究のテーマは、昨年度に引き続き、音楽科の授業における「主体的・対話的で深い学び」を中心に据え、その展開や実践方法の工夫について検討することを目的とした。本研究では、特に感じ取ったイメージを基にした協働活動を充実させることを通じて、生徒が協働する喜びを感じられる音楽科授業の実現を目指した。

研修では、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の具体的な形態を明らかにし、それを授業設計や実践に反映することを主眼とし、協働活動を軸に、生徒同士の相互作用や自己表現の充実を図り、学びの質を高める取組を行った。

①第２回　実践発表「合唱コンクールの実施における各校の取組」（８月８日）

各中学校における合唱コンクールの計画や運営に関する実践事例を持ち寄り、意見交換を行った。さらに、講師の派遣、採点方法、合唱曲の選び方など、合唱コンクールをより効果的に実施するための具体的なアイデアや課題について話し合いを深めた。

〇主な議題と意見交換の内容

・合唱コンクールの計画・運営について
・講師の派遣や採点方法について
・技術的な側面（声の響き、発音の明確さ）と表現的な側面（曲の解釈や感情表現）を分けて評価する方法
・観客アンケートを参考にする工夫
・シンプルな評価基準に統一することで、審査員間のズレを減らす方法
・合唱曲、指揮者・伴奏者、課題曲・自由曲の選定について

今回の研修会を通じて、合唱コンクールをより良い形で運営するための多くの知見が得られた。特に、生徒の主体性を尊重しながら音楽活動を展開することが、学びの質の向上や生徒間の協力関係の強化につながることが再確認された。各校で得られた提案や工夫を持ち帰り、実践に活かしていくことで、合唱コンクールのさらなる充実が期待される。

②第３回　授業研究会（１２月１２日）

題材名　平調「越天楽」―管絃―　作曲者不詳　（教育芸術社「中学生の音楽１」Ｐ５２～５５）
授業者　教諭 村上 麻里（御船町立御船中学校）

授業を見る視点を、①雅楽の音楽的特徴や歴史・文化的背景を学び、日本の伝統音楽への興味と親しみを深めること、②楽器の音色や旋律を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を考察することで、音楽の美しさを自分の言葉で表現する力を養うこと、③ＩＣＴやグループ活動を活用し、生徒が主体的に学習に取り組み、友達と意見を交換しながら学びを深める機会を提供すること、の３点とし、授業研究会を行った。（授業研究会については、４　実践事例で報告。）

③第４回　実践報告会（１月１６日）

各校で行った、実践の報告を行った。研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」に沿った内容で、グループ活動や教材、ワークシートの工夫等についての報告があった。

クループ活動では、各校のＩＣＴを活用した授業や鑑賞指導の工夫が共有された。ロイロノートを活用し、歌唱の工夫を録音・共有する実践や、作曲者や時代背景を整理した鑑賞指導が紹介された。能「敦盛」のプレゼンや「アイーダ」の発表活動、支援を必要とする生徒も参加できる器楽指導の工夫も議論された。「考える時間」を設け、生徒が主体的に学ぶ授業が評価され、多くの意見交換が行われた。今後も授業の質向上に向けた実践を継続していく。

### (2) 成果と課題

①成果

本研究では、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を追求し、特に協働活動の充実を図った。合唱コンクールに関しては、計画や運営方法、評価基準の工夫が議論され、審査員間のズレを減らす方法や観客アンケートの活用など、具体的な改善策が共有された。また、ＩＣＴを活用した指導では、ロイロノートを用いた歌唱指導や作曲者の背景を整理する鑑賞指導が紹介され、効果的な学びの形が提示された。伝統音楽の授業では、「越天楽」を題材に、日本の音楽文化への理解を深める取り組みが行われた。さらに、支援を必要とする生徒も参加できる器楽指導の工夫や、グループ活動を通じた学びの深化が評価された。今後の授業の質向上に向けた基盤が築かれたことが大きな成果である。

②課題

本研究を通じて、合唱コンクールの評価基準の統一と柔軟性の両立が課題として挙げられた。各校の特色を活かしながら、公平な審査を実現する方法のさらなる検討が必要である。また、ＩＣＴの活用については、学校間で設備や活用度に差があり、すべての学校で効果的に実践するための環境整備が求められる。伝統音楽の授業では、生徒の興味喚起にばらつきが見られ、より魅力的な教材や活動の工夫が必要である。さらに、支援を必要とする生徒への指導方法について、具体的な実践例の蓄積が求められる。グループ活動を活用した主体的な学びの促進は一定の成果を上げたが、生徒の思考をより深めるための指導法の工夫が課題として残る。今後、これらの課題に対応しながら、継続的な実践と研究を進めていく必要がある。

## ４　実践事例

### (1) 授業の概要

本研究では、中学校１年生を対象に、日本の伝統音楽「雅楽」の平調「越天楽」を通じて、日本の伝統音楽の魅力や背景を学ぶ授業構想を提案している。具体的には、雅楽の音楽的特徴や歴史的背景を理解し、楽器の音色や旋律を聴き取ることで、音楽の特質や雰囲気を感じ取ることを目指す。生徒が主体的・協働的に学習活動に取り組み、伝統音楽に親しむことができるような授業を計画している。

指導のポイント

・興味関心の喚起

「紫式部も聴いていたかもしれない」といった歴史的背景を示し、親しみを持たせる。まずは自由に感想を述べさせ、雅楽への先入観を引き出す。

・楽器と音楽の特性理解

音楽の構造を「音色」「旋律」の視点で整理し、楽器の役割を明確にする。タブレットで繰り返し音を聴かせることで、個々の楽器の音色を確実に識別できるようにする。

・主体的な学習の促進

ワークシートを活用し、個々の気づきを整理。友達との意見交換を促し、自分の考えを深められるようにする。「なぜ日本らしく感じるのか」という問いを投げかけ、音楽的な要素と文化的背景を結びつける力を育成する。

(2) 学習構想案　（生徒の実態は省略）

# 中学校第１学年　音楽科　学習構想案

日　時　令和６年１２月１２日（木）第５校時
場　所　３階　音楽室
指導者　教諭　村上　麻里

## 1　題材構想

| | | | |
|---|---|---|---|
| 題材名 | 日本に古くから伝わる合奏を聴こう。<br>平調「越天楽」―管絃―　／　作曲者不詳　　（教育芸術社「中学生の音楽１」Ｐ５２～５５） | | |
| 題材の目標 | (1)雅楽の音楽の特徴と、その背景となる文化や歴史との関わりを理解する。＜知識及び技能＞<br>(2)音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさを自分の言葉で表現する。＜思考力、判断力、表現力等＞<br>(3)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、日本の伝統音楽に親しむ。＜学びに向かう力、人間性等＞ | | |
| 題材の評価規準 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 学びに向かう力、人間性 |
| | 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。 | 音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを自分の言葉で表現している。 | 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、日本の伝統音楽に親しもうとしている。 |

| 題材終了時の生徒の姿（題材のゴールの姿・期待される姿） | |
|---|---|
| 雅楽を学習する活動を通して、他にもある日本に古くから伝わる日本の伝統音楽に関心をもつ生徒 | |
| **題材を通した学習課題（題材の中心的な学習課題）** | **本題材で働かせる見方・考え方** |
| 雅楽のよさってなんだろう。 | 音楽に対する感性を働かせ、音色や旋律、それらの働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などと音楽のよさや美しさを関連付けること。 |

**指導計画と評価計画（３時間取扱い　本時１／３）**

| 過程 | 時間 | 学習活動 | 評価の観点等<br>★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1<br>本時 | ○楽器の音色に注目し、楽器に当てはめていく。<br>○吹物、弾物、打物に分かれることを捉え、音色や旋律の特徴をつかむ。<br>○本時で学んだことを振り返り、管絃について知りたいことや疑問に思うことを書く。 | ★【思】<br>○管絃の音楽を形づくっている楽器の音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。<br>（観察、ワークシート） |
| 2 | 1 | ○楽器の特徴を振り返る。<br>○１３００年間もの間、正しい形で受け継がれてきた方法を考える。<br>○「越天楽」の唱歌を歌い、旋律の特徴を感じ取る。<br>○口唱歌について振り返る。<br>○雅楽の生まれた背景や文化、歴史との関連、雅楽の特徴などを理解し、ワークシートにまとめる。 | ★【知】<br>○雅楽の生まれた背景や文化、歴史を学習し、雅楽の音楽の特徴を理解している。<br>（ワークシート）<br>【態】<br>○雅楽の音楽を形づくっている音色や旋律、曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。<br>（観察、ワークシート） |
| 3 | 1 | ○舞楽と管絃を鑑賞し、違いを見つける。<br>○これまで学習してきたことを振り返りながら、雅楽のよさや魅力について、まとめる。<br>○伝統音楽の歴史を知り、次年度の学習に生かす。 | ★【知】<br>○雅楽の生まれた背景文化や歴史を学習し、雅楽の音楽の特徴を理解している。<br>（ワークシート）<br>★【思】<br>○雅楽の音楽を形づくっている楽器の音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。<br>（観察、ワークシート） |

## 3　本時の学習

（1）目標

管絃の音楽を形づくっている楽器の音色や旋律を知り、日本らしい音楽に聞こえる理由を考える。

（2）展開

| 過程 | 時間 | 学習活動　◇予想される生徒の発言 | 指導上の留意事項 |
|---|---|---|---|
| 導入 | 5分 | **1　紫式部も聞いていたであろう音楽を聴く。**<br>①　管絃の冒頭を聞き、思ったことを意見交換する。<br>◇　古い音楽、昔の人が聞いていた音楽<br>◇　ゆっくり流れる音楽、眠くなる音楽<br>◇　あんまり普段聞かない<br>◇　箏の音がした、何の音だろう<br>◇　紫式部は本当に聞いていたのかな<br>◇　日本っぽい音楽<br>**【めあて】日本らしい音楽に感じるのはどうしてか探ろう。** | ○歴史上の人物も聞いていた音楽を自分たちも聞いていることに関心をもたせる。<br>○合奏であることを捉えさせ、どんな楽器があるかに注目させる。 |
| 展開 | 15分<br><br>20分 | **2　管絃に使われる楽器には、どんなものがあるか考える。**<br>①　各楽器の写真を見て、タブレットにある音を聴きながら、どれがどんな音色や旋律かをあてはめていく。<br>②　全体で共有する。<br><br>3　管絃に使われる楽器について、音色を確認していく。<br>①　吹物、打物、弾物の３種に分けられることを知り、それぞれの特徴を捉える。<br>②　吹物に注目して聞き、それぞれの音色が「天・地・空」の宇宙を表現することを知る。<br>③　打物弾物について、役割や音色を確認する。<br>④　管絃の合奏を聴き、合奏のよさや美しさをワークシートに書く。<br>**【期待される学びの姿】**<br>管絃に使われる楽器の特徴を知り、合奏のよさや美しさを自分の言葉で表現することができている。 | ○タブレットで配付しておくことで、何回も聞くことができ、グループで話し合いながら、どの楽器に当てはまる音色や旋律なのかを考えさせる。<br>○音楽的要素を音色、旋律の２つに絞り、その中で、鑑賞の書き方シートを見ながら書かせる。<br>○音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を音楽的要素とその働きの視点で捉え、イメージや自分なりの感情などと関連付ける。<br>**【具体の評価規準】思**<br>**管絃の音楽を形づくっている楽器の音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。**<br>**（観察、ワークシート）**<br>**【到達していない生徒への手立て】**<br>**他の人の意見を参考にしながら、自分なりの考えをもてるようにする。** |
| 終末 | 10分 | **4　本時の学習で考えたことを書く。**<br>**【まとめ】**<br>**日本らしい音楽に感じるのは、打物や弾物の音色が古風な感じで、吹物の旋律が高い音で宇宙を表していたからだと感じた。**<br>**等** | ○自分が管弦を聴いて感じ取ったことを振り返りながら、新しく発見したことや疑問に思ったことをまとめる。 |